

《事例発表》  
《사례발표》

高齢者福祉施設での  
社会福祉士の位置と役割

---

고령자복지시설에서의  
사회복지사의 위치와 역할

盧 甲連  
노 갑연

韓国 愛光老人療養園 園長  
한국 애광노인요양원 원장

# 高齢者福祉施設での社会福祉士の位置と役割 ～地域社会連繋の実践事例を中心に～



盧 甲連  
韓国 愛光老人療養園  
園長

## 1. はじめに

- 1) 施設紹介
  - (1) 社会福祉老人愛光院の現況
  - (2) 愛光老人療養院の現況
- 2) 入所老人の現況

## 2. プログラム実践事例

- 1) リハビリのためのプログラム
  - (1) 園芸治療
  - (2) 言語治療
- 2) 地域社会との交流のためのプログラム
  - (1) ミニスーパー運営
  - (2) 市場での買い物
  - (3) 市場および奉仕団運営
  - (4) みどり農園手入れ
  - (5) 地域社会行事へ参加
- 3) 施設開放と家族参加のための活動
  - (1) 施設内行事に地域住民、家族、後援者、ボランティアを招待
  - (2) 名節（正月、盆などの祝日）帰宅者支援、誕生会参加
- 4) 地域社会の認識改善および人的、物的、資源動員のための活動

## 3. 結び

## 1. はじめに

高齢者福祉施設での社会福祉士の位置と役割という主題に接し、長い時間多くのことを考えた。韓国の老人療養施設の多くの活動の中で、地域社会との連繋と関連して、特にわが愛光老人療養院の関連プログラムを自ら明らかにし評価する作業にも似て、恐れが先立ったのも事実である。しかしこの機会を通して我々の活動を皆様に正直に明らかにし、客観的で冷静な助言を求められる機会が与えられたことに感謝し、より発展できるよい契機となることを期待するものである。

我々の施設の場合でいえば、最近何年の間、新しく入所した老人の全般的な特徴は、満58歳から104歳までと年齢の幅が広まり、身体上の深刻な活動障害を持った重症老人が増加していることである。半面、施設入所期間が6ヶ月程度経過すると疾病が好転したり、身体的・精神的な機能が回復している老人も増加していることが確認できる。施設では重症老人の損傷程度による個別的で集中的な介護を行い、好転状態を見せる老人に対しては身体的な活動の機会を増やし、地域社会との日常的な交流を支援して地域社会の中の住民として正常に生活できるようにすることを目的にサービスの支援を計画している。

現在、老人の状態の全般的な査定結果と個別的な要求、リハビリの可能性などを最大限に考慮し、疾病が好転する老人には身体的な機能の継続的な回復と社会的機能維持に焦点を合わせ、重症状態の老人に対しては残存機能の維持および安定した環境で老後が送れるように最大限支援するなど、差別化したサービスを提供している。

- ① 個別的なサービス介護を通して悪化する機能を最大限回復させ、入所老人の身体的・精神的な自立を図る。
- ② リハビリの可能性が低い老人は残存機能の維持を助け、安定した環境で身体的・精神的により健康的で正常な生活ができるよう支援する。
- ③ 院内生活中、身体機能を改善するだけでなく、社会的な機能を維持・回復できるよう日常生活を介護し、小集団プログラム活動を通してこれを改善する。
- ④ 老人が地域社会に対する関心と地域社会の知人との関係を持続的に維持できるよう支援する。

## 1) 施設紹介

### (1) 社会福祉法人愛光院の現況

#### ① 設立目的

社会福祉法人愛光院は 1951 年故ペ・サムスル牧師が肉体的・精神的に疲れ、傷ついた老人を神の愛で伝導し、救われるように導くことを目的に設立した。

#### ② 主要沿革

1951 年 愛光養老院 開院

1960 年 愛光保育園 開院

1986 年 愛光老人療養院 開院 / 愛光保育園 解散

1992 年 愛光在家老人福祉機関 開院 (家庭奉仕員派遣センター 実施)

1994 年 愛光在家老人福祉機関 (昼間保護センター 実施)

1996 年 愛光在家老人福祉機関 (短期保護センター 実施)

1998 年 愛光痴呆老人専門療養院 開院

### (2) 愛光老人療養院の現況

#### ① 設立目的

中風・老人性疾患で自立的な生活が難しいお年寄りを入所させ、無料で医療リハビリ、余暇および社会的リハビリ、食事、その他日常生活に必要なサービスを提供して身体的・精神的な安定と安らかな老後が送れるようにする無料老人療養施設である。

#### ② 入所老人数：70 人 (男 17 人 / 女 53 人)

#### ③ 地域的特性 (施設所在地のクムジョン区)

—位置：韓国釜山広域市クムジョン区ジャンジョン2洞 503-78 (市場から徒歩 10 分：クムジョン山植物園近隣)

—地域社会の特性：長く住む土着民とクムジョン山の秀麗な自然環境を中心に形成された高級アパート村に他地域から移住した住民が多く、低開発地域を中心に高齢の低所得層が居住する貧村が形成されている。

1950 年当時、一般住民が殆どない山麓を中心に小規模の児童施設と老人施設が建てられ、現在は老人福祉施設 8 ヶ所、児童福祉施設 5 ヶ所、障害者生活施設 1 ヶ所、総合社会福祉館 2 ヶ所、各種医療施設、小規模グループホームなど釜山市で最も社会福祉施設が多い所である。

—人口 (2003 年末基準)：総人口 272,334 人 (男 135,221 人/女 137,113 人)

/ 65歳以上の老人人口 約18,700人(6.87%) この中、保護優先順位の国民基礎生活保障受給対象老人は約600人である。

④ 職員現況：総28人（正規職員 25人 / 契約職員 3人）

職責	院長	事務局長	社会福祉士	嘱託医師	看護師	物理治療士	栄養士	調理員	衛生員	その他	計
人員	1	1	15	1	2	1	1	2	1	3	28

※その他人員：看病補助、洗濯補助、公益要員

⑤ ボランティア現況：総308人

活動分野	女	男
日常生活補助	60	33
入浴奉仕	60	10
余暇・リハビリプログラム	40	10
間食奉仕・おかず奉仕	53	
車両奉仕		5
理・美容奉仕	5	2
行事補助	20	10
小計	238	70
総人員	308	

2) 入所老人の現況

(1) 入所資格

- 満65歳以上の国民基礎生活保障受給者
- 老人性疾患を患い、家族から適切な扶養が受けられない老人

(2) 年齢別現況

区分	計	～65歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～95歳	96～100歳	100歳～
男	17	2	6	2	3	2	1			1
女	53		6	11	15	10	6	5		
総計	70	2	12	13	18	12	7	5		1

(3) 疾患別現況

良好	寝たきり	痴呆	中風	筋骨格系 (神経痛・関節炎)	内科疾患	視覚・聴覚 言語障害	その他	計
	2	3	28	10	21	5	1	70人

## 2. プログラム実践事例

### 1) リハビリのためのプログラム

#### (1) 園芸治療

認知力の低下、片麻痺障害、痴呆の疑いのある老人などを対象に、地域内の専門講師に依頼して実施する。施設内活動は草花手入れ、花飾り作り、トマト栽培などを実施し、春には近隣の植物園の花見、秋にはクムジョン山のもみじ狩りをボランティアとともに実施している。

園芸治療は主対象老人だけでなく、全般的な機能が良好な老人の関心も非常に高い。プログラムの結果がいつも出て、周囲の人々もこれを共有するので、参加したお年寄りの自尊心が向上する様子が観察できる。

社会福祉士はプログラムの企画と講師交渉、ボランティア動員、プログラムの評価など全般的な業務を遂行する。

#### (2) 言語治療

言語機能に損傷がある老人の場合、日常生活の中で憂鬱症と生活満足度が非常に低いことが観察される。脳卒中・老患で意思の表現に障害がある老人を対象に言語治療士を中心に実施している。

言語治療のための地域社会広報は、ボランティア募集の効果とともにわが院のプログラム全般に対する広報効果があった。自閉児童をもった父母や言語治療に関心がある一般の問合せが非常に多く、その中の一部は直接プログラム教育過程に参加して子女に試みようとする父母もいた。

その他、作業治療（折り紙、工芸教室）、歌教室、ダンス教室などがあり、可能な限り地域内の専門家を活用する努力しており、補助要員としてボランティアを活用した。

### 2) 地域社会との交流のためのプログラム

自立歩行または補装具を使用して自立移動が可能で、認知・社会的な機能が良好な老人を対象にする。地域社会の中の住民として正常な活動を支えるためのプログラムで、最小3～5年の長期計画のもとで実施している。

#### (1) ミニスーパー運営

ミニスーパーは庭の片方にコンテナ1棟を設置し、お年寄りが主に求める茶菓類を販売している店である。

##### ① 目標

－「商人」という社会的役割を付与し、計算能力と認知力を向上させ、痴呆発病を予防

－地域社会住民の老人福祉施設に対する認識転換

② 対象

－認知機能が高く社会的な役割遂行が可能なお年寄り

③ 実行方法

－日々当番制で老人が直接スーパーを運営

④ ミニスーパーの役割および効果

－ただ物品を販売する空間だけでなく、顔馴染みが集い談笑する「サランバン」（居間）の役割

－「私たちの店」という認識で商店の管理（販売実績、掃除、整理整頓など）にたいへん意欲的

－療養院の老人と近所の住民が商店とお客の関係で交流でき、親睦が図れる

－地域住民の施設に対する偏見が減少し、施設老人でない平凡な近所の老人として認識

⑤ 社会福祉士の役割

－商店開店のための全般的な活動（企画、広報、資源確保など）

－開店式実施（イベントを通して地域社会に広報効果）

－運営による各種問題点の調整

(2) 市場での買い物

施設で長く暮らした老人であるほど、依存心が高く自立心が次第に減少する傾向がある。認知力の低下による金銭管理能力の喪失および消費欲求の低下は、次第に施設で提供されるサービスに満足して地域社会とは断絶した生活を営むようになる。従って老人に直接市場で物が買える機会を提供することで自立生活機能の維持を支援し、地域社会と親しく交流して施設老人ではなく地域社会の住民としての認識で生活できるよう誘導している。

① 目的：地域社会に対する認識向上、自己管理機能の強化、自立意志の鼓吹

② 対象：挙動の可能な全体のお年寄り（挙動不便なお年寄りの必要時の同行または代行）

③ 内容：毎週2回、近所の市場に外出し、必要な物品の購買、ウインドウショッピング、個別活動

④ 社会福祉士の役割

－車両サービス提供、挙動不便なお年寄りとボランティアの結びつけ、購買

## 欲求の刺激・調節

### (3) 愛の光奉仕団運営

施設の職員により全的に提供されるサービスは、人間としての自尊心と生に対する意欲を低下させる結果をもたらすこともある。老人に分ち合いの喜びと不便な身体でも他人を助けることができる機会を提供し、自我尊重心の向上に役立てようと「愛の光奉仕団」を構成した。

- ① 目的：ボランティア活動を通して自尊心の回復を助ける
- ② 対象：挙動可能な老人
- ③ 奉仕活動場所：重傷障害児童施設、月1回訪問
- ④ 奉仕活動内容：障害児童の食事補助、話し相手、遊び相手など
- ⑤ 社会福祉士の役割

－奉仕活動の場所の選定

－奉仕活動場所との関係強化（障害児童が我が施設に年2回訪問して老人とゲームも楽しみ、重症老人の食事の世話も助けるなどの活動をしている

2年以上持続している奉仕活動で、参加老人は訪問前に小遣いを集め障害児童のため飲み物を買うなど、誰かのためになっているという喜びを感じている。また奉仕活動対象の児童に情が湧き、活動に対する遣り甲斐も持つようになった。

### (4) みどり農園手入れ

農耕文化で成長期を過ごした老人はほとんど野良仕事に郷愁を持っている。近所の200余坪の個人農場の後援を受け、農作物（白菜、大根、さつまいもなど）を栽培している。お年寄りには収穫を待ち、たいへん大きな達成感と自信、期待を持ち、農場に対する大きな愛着を見せている。また活動当日は適度な疲れで熟睡でき、1週間前からずっと次の訪問日にしなければならない仕事を準備している。週1回の農場活動が老人の生活に重要なものになっている。このプログラムは、定期的実施される室内のプログラムが与える日常性を脱皮し、残存機能が高い老人の積極的な参加、特におじいさんが興味を持って参加している。

担当の社会福祉士は、材料費の確保のほか、農作地の交渉、栽培と収穫、収穫物の処理、農場管理者の交渉、ボランティア動員など全体のプログラム運営において非常に積極的な世話をしている。

### (5) 地域社会行事へ参加

- ① クムジョン区民の日、「クムジョン祭」行事に参加：わが施設が属するクム



ジョン区主催で実施し、マッコリ（濁酒）とのど自慢などを兼ねた住民の祝祭を開いている。私たちのお年寄りも毎年見物し、地域社会のお年寄りとして行事に参加している。

- ② 一つの心敬老大祝祭：毎年釜山老人福祉施設協会で全施設老人の祭りを開いている。多数の挙動可能な老人が参加し、お互いの情を分かち合い、軽いゲームとレクリエーションを楽しんでいる。

### 3) 施設の開放と家族参加のための活動

#### (1) 施設内行事に地域住民、家族、後援者、ボランティアを招待

##### ① 実施背景

我々の施設は現在の地で古く、地域住民からの認知度は高い方であるが、お互い隣人としての交流はなかった。住民は、「可哀想な老人が集まっている所」として認識しているだけで施設がどんな目的で、どんな活動をしているのかを知らせるのには消極的であった。

このような結果は、老人福祉施設と地域社会との距離を遠いものにし、新規施設ができるときに嫌悪感が持たれ、地域住民との葛藤が起きることもあった。

しかし老人福祉施設が地域社会と断絶して運営される時には、施設の運営はもちろんサービスの質的向上も期待が難しい。地域社会の住民に老人福祉サービスに対する正しい認識を植付け、彼らを参加させることが彼らを施設の人的な資源として活用できる道であり、入所老人を地域社会の平凡な住民にする方法である。

このため施設内の行事などへいろいろな方法で機関、団体、隣人の参加を誘導している。

ー春・秋の全体外出、シルバー歌謡祭、70、80歳のお祝い、夏の夜祭（サンギョップサルパーティ：豚焼肉）などの行事を通して家族、地域住民との関係を形成している

##### ② 社会福祉士の役割

ー行事計画

ー広報者の発掘および広報：公共機関、関係機関、関心のある地域住民の目録作成と管理

ー月1回の広報誌発送：事業内容案内、参加できるアイテム提供

#### (2) 名節（正月、盆などの祝日）帰宅者支援、誕生会参加

### ① 実施背景

正月、秋夕（中秋）は韓国固有の名節で、家族らが集い祖先に茶礼（忌祭）を済まし、近い親戚や親しい人を訪れて近況を語り合う日である。施設の老人の中で、条件が許す家庭に限り一時的に帰宅できるようにし、家族と名節を過ごした後、施設に帰るようにする。

入所老人の誕生日に家族が施設を訪問し、職員、老人、家族がともに誕生日のお祝いパーティをし、おいしい食べ物を一緒に食べ、お互いの情を通わせるように誘導する。

### ② 社会福祉士の役割

- 家族の参加動機を与える電話・来訪家族相談、書信発送
- 老人の気持整理（本人が望むときに帰宅誘導）
- 帰宅支援（車両提供、家族同行誘導）

## (3) 近隣学校および企業との姉妹血縁活動

### ① 実施背景

1988年ソウルオリンピックを契機にボランティア活動の社会的必要性が提起されて以来、韓国の各学校では正規教育課程の一つとしてボランティア活動を積極奨励している。同時にわが施設でも地域社会住民の福祉教育の場として役割遂行のため各学校および企業との姉妹血縁を積極的に実施してきた。現在、小学校5校、中・高校4校、大学4校、多数の企業および企業内同好会と定期的な交流（ボランティア活動、福祉教育実施、共同行事主催、経済的な後援）をしている。

### ② 社会福祉士の役割

- 学校、企業の参加動機を与えるための広報および訪問、書信発送
- 社会福祉およびボランティアに関する基本教育、評価
- 活動に対する褒賞次元での表彰状授与および言論広報

定期的に来るボランティアの場合、老人と個人的な親しみが深くなるので、個別的に手紙の交換、外出、贈り物の贈りあいなどが行われることもある。特に核家族が大部分の青少年と若い社会人に老人に対する敬いと敬老孝親（親孝行）の伝統的な価値を経験させることができ、家族が恋しい老人は彼らを通して本当の孫を見る喜びを感じている。

## 4) 地域社会の認識改善および人的、物的資源動員のための活動

### — 慈善コンサート—

老人福祉施設が地域社会とともに歩む地域の福祉施設となるためには、過去の

施設に対する否定的な認識と偏見を無くすことが重要である。すべての地域社会が施設の正しい役割と重要性をともに共有して参加するとき、施設で生活する老人もまた堂々とした地域社会の住民として生活できる。

施設の認識転換は多くの方法があり、わが施設では地域住民に文化的な体験を提供して施設の肯定的な認識向上のための方法として慈善コンサートを企画した。

#### ① 目的

－地域社会

#### ② 対象－地域社会住民

#### ③ 財源－スポンサーおよび後援、公演収益（チケット販売金額）

#### ④ 社会福祉士の役割

コンサート企画および全体的な進行と関連したすべての活動を遂行する。

行事後、多くの所で施設に対する肯定的な反応を確認することができ、特に施設を年末特集放送用として扱ってきた大衆媒体で、新しい施設の姿を放映したいという要請が多かった。地域内の企業だけでなく、全国次元の金融圏でも今後わが施設に対する社会福祉基金予算を別途策定するという意志を伝えてきたし、現在も各種行事に積極的にボランティアとして参加している。

### 3. 結び

今までわが愛光療養院のいろいろなプログラムを通して、簡略であるが地域社会と関連した社会福祉の活動に関して紹介した。能力不足で正確に伝わらなかった部分は、ご了承を乞う。

発表者の主観的見解であることを前提に、わが施設はプログラム開発とか資源確保などにおいて韓国その他施設に比べ、社会福祉士の役割がたいへん活発だと自負している。しかし全体的なサービスの専門性と効果、効率性を確保しているかの問いには非常に不十分な水準であると正直に認めるしかない。

特に重症老人に対しては日常生活支援とか医療サービスまたは治療プログラムだけに偏っており、ボランティアの大部分が単純日常生活支援に投入されている。半面、地域社会と関連した比較的活動的なプログラムの場合は参加老人が少数とか、いろいろな理由で参加が制限されるとか、またいくつかのプログラムに重複的に参加する老人もいるなどの課題もある。

また紹介した事例でも分かるが、対象老人がプログラムに参加することで、どんな

変化や生の質に向上が見られたのかなどの効果に対する根拠の提示も至らなかった。様々な原因がありえるが、私が考えるいくつかの重要な限界点を提示することで発表を終える。

第1にプログラムの評価に関する専門性の不足である。

サービス計画の必須条件である査定尺度の開発および活用が足りない関係で、評価の客観性の確保が難しい。もちろん開発施設ごとに既存の評価道具や施設自体の尺度で老人の機能状態に対する査定をし、プログラムの目標および効果に対する評価を実施している。しかしすべての韓国の老人施設で使用できる公式的で客観的な評価尺度に対する整理が不備で、老人の機能状態に対する定義とかサービス支援も殆ど同一とかまたは全然違う解釈をしたりもする。このような限界点は社会福祉士の個人的な道具活用能力とか判断力に依存することで、結果的に社会福祉士の専門性に対する挑戦の理由にもなる。

しかし現在韓国の公信力のある研究機関および研究者により尺度開発作業が活発に進められており、このような問題は次第に解消できると思われる。

第2に老人福祉施設人材の各部分別専門化および職責による職務分析の不備である。

老人療養施設の場合、職員配置において直接ケアを担当する人材のほかボランティア管理、資源動員、プログラム企画、行政、施設管理など多くの人材が必要で、各分野ごとそれなりの専門性が要する。しかし現在、韓国の老人福祉施設人材は、日常ケアを担当する社会福祉士が大部分で、彼らがケア以外の前述のすべての業務を分担している。これはサービスの質低下と業務の過重、分野別専門性の不足、職責による位置と役割の混乱をきたす結果を生んでいる。

社会福祉サービスで専門人材の確保は非常に重要な要素として現在大幅な人材確保と職務分析に対する活発な議論が起こっている。

第3に施設職員の福利厚生制度が足りない。

韓国の場合、社会福祉施設職員の報酬水準は一般企業の約75%の水準である。また各種福利厚生制度（休暇、出産、育児、各種手当など）も一般的な社会期待値に達していない。社会福祉士の処遇改善のための要求は社会福祉士協会を中心に継続されてきたし、最近は非常に積極的な問題提起もある。

わが愛光老人療養院は多くの部分で足りないところもあるが、足りないということは満たさなければならないという目標があるということで、我々には老人のための最善の老人福祉施設を目指す希望がある。

また韓国の社会福祉施設50年を見守ってきた我々の先輩は「奉仕は犠牲」の使命

感で今の韓国社会福祉の土台を築き、最近の社会福祉専門家としてのそれぞれの現場で意欲的な活動を見せている若い社会福祉士は先進福祉国家の土台を作るための努力を傾注している。

## プロフィール

盧 甲連（ノ・カビョン）

韓国 愛光老人療養園 園長

釜山大学 行政大学院 社会福祉 専攻

現 韓国 愛光老人療養園 園長

現 韓国 愛光在家老人福祉機関 館長

参考に愛光在家老人福祉機関は、家庭奉仕員派遣センター、昼間保護センター、短期保護センターがあります。

# 고령자복지시설에서의 사회복지사의 위치와 역할

## -지역사회연계 실천 사례를 중심으로



노 갑 연  
애 광 노 인 요 양 원  
원장

### I. 여는 말

1. 시설소개
  - 1) 사회복지법인 애광원 현황
  - 2) 애광노인요양원 현황
2. 거주노인 현황

### II. 프로그램 실천 사례

1. 재활을 위한 프로그램
  - 1) 원예치료
  - 2) 언어치료
2. 지역사회와의 교류를 위한 프로그램
  - 1) 미니슈퍼 운영
  - 2) 시장보기
  - 3) 사랑빛 봉사단 운영
  - 4) 녹색농장 가꾸기
  - 5) 지역사회 행사 참여
3. 시설개방과 가족참여를 위한 활동
  - 1) 시설내 행사에 지역주민, 가족, 후원자, 자원봉사자 초대
  - 2) 명절귀가지원, 생신잔치 참여
4. 지역사회 인식개선 및 인적, 물적 자원의 동원을 위한 활동

### III. 맺음말

## I. 여는말

고령자복지시설에서의 사회복지사의 위치와 역할이라는 주제를 접하고 오랜시간 많은 생각을 하게 되었다. 한국의 노인요양시설의 많은 활동중 지역 사회연계와 관련하여 특히 우리 애광노인요양원의 관련 프로그램을 스스로 드러내고 평가하는 작업이라 두려움이 앞섰던 것이 사실이다.

그러나 이런 기회를 통해 우리의 활동을 여러분들에게 솔직히 드러내고 객관적이고 냉정한 조언을 구하는 기회가 주어진 것에 감사드리며, 더욱 발전할 수 있는 좋은 계기를 만들어 주실 것으로 기대한다.

우리 시설의 경우 최근 몇 년간 새로 입소한 노인의 전반적인 특징은 만58세~104세까지 연령의 폭이 넓어지고, 신체상의 심각한 활동장애를 가진 중증노인이 증가하고 있다. 반면, 시설거주기간이 6개월 정도 경과하면서는 질병이 호전되거나 신체적·정신적 기능을 회복하고 있는 노인도 증가하고 있음을 확인할 수 있다. 이에 시설에서는 중증 노인들의 손상정도에 따른 개별적이고 집중적인 개입과, 호전상태를 보이는 노인에 대해서는 신체적 활동기회를 늘리고 지역사회와의 일상적인 교류문화를 형성하도록 지원하여 정상적인 지역사회속의 주민으로 생활할 수 있도록 하는 것을 목적으로 서비스 지원을 계획하고 있다.

따라서 현재 노인의 상태에 대한 전반적인 사정결과와 개별적인 욕구, 재활의 가능성을 최대한 고려하여, 질병이 호전되는 노인에게는 신체적 기능의 지속적인 회복과 사회적기능 유지에 초점을 두고, 중증 상태의 노인에 대해서는 잔존기능의 유지 및 안정된 환경에서 노후를 보낼 수 있도록 최대한 지원하는 것으로 차별화된 서비스를 제공하고 있다.

- ① 개별적인 서비스 개입을 통하여 약화된 기능을 최대한 회복하여 입주 노인의 신체적·정신적 자립을 도모한다.
- ② 재활의 가능성이 낮은 노인은 잔존 기능의 유지를 도우며, 안전한 환경에서 신체적·정서적으로 보다 건강하고 정상적인 생활을 할 수 있도록 지원한다.
- ③ 원내 생활 중 신체 기능을 개선하는 것 뿐 아니라, 사회적인 기능을 유지·회복할 수 있도록 일상생활중 개입하며, 소집단 프로그램 활동을 통하여 이를 개선하고자 한다.
- ④ 노인들이 지역사회에 대한 관심과, 지역사회의 지인들과의 관계를 지속적



으로 유지할 수 있도록 지원한다.

## 1. 시설소개

### 1) 사회복지법인 애광원 현황

#### (1) 설립목적

사회복지법인 애광원은 1951년 고 배삼술목사께서 육체적·정신적으로 지치고 상처받은 노인분들에게 하나님의 사랑으로 전도하여 구원받도록 인도하는 것을 목적으로 설립하였다.

#### (2) 주요연혁

1951년 애광양로원 개원

1960년 애광보육원 개원

1986년 애광노인요양원 개원 / 애광보육원 해산

1992년 애광재가노인복지기관 개원 (가정봉사원파견센터 실시)

1994년 애광재가노인복지기관 (주간보호센터 실시)

1996년 애광재가노인복지기관 (단기보호센터 실시)

1998년 애광치매노인전문요양원 개원

### 2) 애광노인요양원 현황

#### (1) 설립목적

중풍·노인성질환으로 자립적인 생활이 어려운 어르신들을 입소시켜 무료로 의료재활, 여가 및 사회적 재활, 식사, 기타 일상생활에 필요한 서비스를 제공하여 신체적·정신적으로 안정되고 편안한 노후를 보낼 수 있도록 하는 무료노인요양시설이다.

(2) 거주노인수 : 70 명(남 17명 / 여 53명)

#### (3) 지역적 특성(시설소재지인 금정구)

- 위치 : 부산광역시 금정구 장전2동 503-78

(시장에서 도보로 10분 : 금정산 식물원인근)

- 지역사회 특성 : 오랜기간 거주한 토착민과, 금정산의 수려한 자연환경을 중심으로 고급아파트촌이 형성되면서 타지역에서 이주한 주민들이 많으며, 저개발지역을 중심으로 고령의 저소득층이 거주하는 빈촌이 형성되어 있다.

1950년 당시 일반 거주민들이 거의 없는 산기슭을 중심으로 소규모의

아동시설과 노인시설이 자리잡기 시작하였고, 현재는 노인복지시설 8개소, 아동복지시설 5개소, 장애인생활시설 1개소, 종합사회복지관 2개소, 각종의료시설, 소규모 그룹홈 등 부산시에서 가장 많은 사회복지시설이 있는 지역이다.

- 인구(2003년말 기준) : 총인구 272,334명(남 135,221명/여 137,113명) / 65세 이상의 노인인구 약18,700명(6.87%) 이 중 보호우선순위인 국민기초생활보장 수급대상 노인인 약 600여명이다.

(4) 직원현황 : 총 28명(정규직원 25명 / 계약직원 3명)

직책	원장	사무국장	사회복지사	촉탁의사	간호사	물리치료사	영양사	조리원	위생원	기타	계
인원	1	1	15	1	2	1	1	2	1	3	28

\*기타인원 : 간병보조, 세탁보조, 공익요원

(5) 자원봉사자 현황 : 총 308명

활동분야	여	남
일상생활보조	60	33
목욕봉사	60	10
여가재활 프로그램	40	10
간식봉사 / 밑반찬봉사	53	
차량봉사		5
이·미용 봉사	5	2
행사보조	20	10
소계	238	70
총인원	308	

## 2. 거주노인 현황

### 1) 입주자격

- 만 65세 이상의 국민기초생활보장 수급자
- 노인성 질환을 앓고 있으며, 가족으로부터 적절한 부양을 받지 못하는 노인

## 2) 연령별 현황

구분	계	~65세	65~69세	70~74세	75~79세	80~84세	85~89세	90~95세	96~100세	100세~
남	17	2	6	2	3	2	1			1
여	53		6	11	15	10	6	5		
총계	70	2	12	13	18	12	7	5		1

## (3) 질환별 현황

양호	와상	치매	중풍	근골격계 (신경통·관절염)	내과질환	시각·청각 언어장애	기타	계
	2	3	28	10	21	5	1	70명

## II. 프로그램 실천 사례

### 1. 재활을 위한 프로그램

#### 1) 원예치료

인지력 저하, 편마비 장애, 치매의심 노인등을 대상으로 지역내 전문강사에 의해 실시된다.

시설내 활동은 화초가꾸기, 꽃장식물 만들기, 토마토 키우기등을 실시하며, 봄철에는 인근 식물원의 벚꽃감상, 가을철에는 금정산의 단풍구경을 자원봉사자들과 함께 실시하고 있다.

원예치료는 주대상노인뿐 아니라 전반적인 기능이 양호한 노인들의 관심도 매우 높다. 프로그램 결과물이 항상 나오며, 주위 사람들과 이를 공유함으로써 참여 어르신들의 자존감이 향상되는 모습을 관찰할 수 있다.

사회복지사는 프로그램의 기획과 강사섭외, 자원동원, 프로그램의 평가 등 전반적인 업무를 수행한다.

#### 2) 언어치료

언어기능에 손상이 있는 노인의 경우 일상생활중 우울증과 생활만족도가 매우 낮음이 관찰된다. 뇌졸중·노환으로 의사표현에 장애가 있는 노인을 대상으로 언어치료사를 중심으로 실시하고 있다.

언어치료를 위한 지역사회 홍보는 자원봉사자의 모집의 효과와 함께 우리원의 프로그램 전반에 대한 홍보효과가 있었다. 자폐아동을 가진 부모나 언어치료에 관심이 있는 일반인들의 문의가 매우 많았으며, 그중 일부는 직접

프로그램 교육과정에 참여하여 자녀에게 시도해 보고자 한 부모도 있었다.

그 외 작업치료(종이접기, 공예교실), 노래교실, 공예교실, 댄스교실 등이 있으며 가능한 한 지역내 전문가를 활용하려고 노력하고 있으며, 보조요원으로 자원봉사자를 활용한다.

#### 4. 지역사회와의 교류를 위한 프로그램

자립보행 또는 보장구를 사용하여 자립이동이 가능하고, 인지·사회적 기능이 양호한 노인을 대상으로 한다. 지역사회속의 주민으로 정상적인 사회적 활동을 지지하기 위한 프로그램으로 최소 3-5년의 장기계획하에 실시하고 있다.

##### 1) 미니슈퍼 운영

미니슈퍼는 우리원 마당 한켠에 컨테이너 1동을 설치하여 어르신들이 주로 찾는 다과종류를 판매하고 있는 상점이다.

##### ① 목표

- “상인”이라는 사회적 역할을 부여하여 계산능력과 인지력을 향상시켜 치매 발병을 예방
- 지역사회주민들의 노인복지시설에 대한 인식 전환

##### ② 대상 - 인지기능이 높고 사회적 역할 수행이 가능한 어르신

##### ③ 실행방법 - 일일 당번제로 노인들이 직접 슈퍼 운영

##### ④ 미니슈퍼의 역할 및 효과

- 단지 물건을 판매하는 공간일 뿐 아니라 끼리끼리 모여 담소를 나누는 ‘사랑방’의 역할
- ‘우리가게’ 라는 인식으로 상점의 관리(판매실적, 청소, 정리정돈 등)에 매우 의욕적임
- 요양원 노인과 인근 주민들이 상인과 손님의 관계로 교류하며 친목을 도모
- 지역주민의 시설에 대한 편견을 감소시키고, 시설노인이 아닌 평범한 이웃노인으로 인식

##### ⑤ 사회복지사의 역할

- 상점개점을 위한 전반적인 활동(기획, 홍보, 자원확보 등)

- 개점식 실시(이벤트를 통한 지역사회에 홍보 효과)
- 운영에 따른 각종 문제점 조정

## 2) 시장보기

시설에서 오래 생활한 노인들일수록 의존성이 높고 자립심이 점차 감소하는 경향이 있다.

인지력의 저하로 인한 금전관리 능력의 상실 및 소비욕구의 저하는 점차 시설에서 제공되는 서비스에 만족하여 지역사회와는 단절된 생활을 영위하게 된다.

따라서 노인들에게 직접 시장에서 물건을 구매할수 있는 기회를 제공함으로써 자립생활 기능의 유지를 지원하고, 지역사회와 친근하게 교류하며, 시설노인이 아닌 지역사회 주민으로 인식하며 생활하도록 유도하고 있다.

- ① 목적 : 지역사회에 대한 인식제고, 자기관리기능 강화, 자립의지 고취
- ② 대상 : 거동가능한 전체 어르신(거동불편 어르신 필요시 동행 및 대행)
- ③ 내용 : 매주 2회 인근 시장으로 외출하여 필요한 물품구매, 아이쇼핑, 개별활동
- ④ 사회복지사의 역할
  - 차량서비스 제공, 거동불편 어르신 자원봉사자 연결, 구매욕구 자극·조절

## 3) 사랑빛 봉사단 운영

시설 직원에 의해 전적으로 제공되는 서비스는 노인들의 인간으로서의 자존감과 삶에 대한 의욕을 저하시키는 결과를 가져오기도 한다. 이에 노인들에게 나눔의 기쁨과 불편한 몸이라도 타인을 도울 수 있는 기회를 제공하여 자아존중감 향상에 도움을 주고자 “사랑빛 봉사단”을 구성하였다.

- ① 목적 : 자원봉사활동을 통하여 자존감 회복을 도움.
- ② 대상 : 거동 가능한 노인
- ③ 봉사활동처 : 중증장애아동시설, 월 1회 방문
- ④ 봉사활동내용 : 장애아동의 식사도우미, 말벗, 놀아주기 등
- ⑤ 사회복지사의 역할
  - 봉사활동처 선정
  - 봉사활동처와의 관계강화(장애아동들이 우리시설에 년 2회 방문하여 노인들과 게임도 즐기고, 중증 노인들의 식사 수발도 돕는 등의 활동

을 한다)

2년넘게 지속된 봉사활동으로 참여 노인들은 방문전 용돈을 모아 장애아동을 위한 음료를 구입하는 등 누군가를 도울 수 있다는 기쁨을 느끼고 있다. 또한 봉사활동 대상 아동에게 정을 느끼게 되었고, 활동에 대한 보람도 가지게 되었다.

#### 4) 녹색농장가꾸기

농경문화에서 성장기를 보낸 노인들은 농사일에 대한 향수를 대부분 가지고 있다. 이에 인근 200여명의 개인농장을 후원받아 농작물(배추, 무우, 고구마 등)을 경작하고 있다.

노인들은 수확물을 기다리며 매우 큰 성취감과 자신감, 기대감을 가지고 농장에 대한 대단한 애정을 보낸다. 또 활동당일 적당한 피곤함에 숙면을 취할수 있으며, 1주일내내 다음 방문일에 하여야 할 일을 준비함으로써 주 1회의 농장 활동이 노인들의 생활에 중요한 과업이 되고 있다. 이 프로그램은 정기적으로 실시되는 실내 프로그램이 주는 일상성을 탈피하여, 잔존기능이 높은 노인의 적극적인 참여가 이루어지고 있으며, 특히 남자 노인들이 흥미를 가지고 참여하고 있다.

담당 사회복지사는 재료비 확보 외 농작지 섭외, 재배 및 수확, 수확물 처리, 농장 관리자 섭외, 자원봉사자 동원 등 전체 프로그램 운영에 있어 매우 적극적인 개입을 하고 있다.

#### 5) 지역사회 행사 참여

- ① 금정 구민의날, ‘금샘제’ 행사 참여 : 우리 시설이 속한 금정구 주최로 실시하며, 떡거리와 노래자랑 등을 겸하여 주민의 축제를 열고 있다. 우리 어르신들은 매년 참여하여 관전하며 지역사회의 어른으로서 행사에 참여하고 있다.
- ② 한마음 경로대잔치 : 매년 부산 노인복지시설협회에서 전체 시설노인들의 잔치를 열고 있으며, 다수의 거동가능한 노인들이 참여하여 서로간의 정을 나누며 즐거운 가벼운 게임과 레크레이션을 즐기고 있다.

### 3. 시설 개방과 가족 참여를 위한 활동

#### 1) 시설내 행사에 지역주민, 가족, 후원자, 자원봉사자 초대

##### ① 실시배경

우리원은 오랜 기간 현재의 위치에 자리하여 지역 주민들로부터의 인지도는 높은 편이나, 서로간에 이웃으로서 일상적인 교류는 이루어지지 않고 있었다. 주민들은 ‘불쌍한 노인들이 모여있는 곳’으로만 인식하고, 시설 또한 어떤 목적으로 어떤 활동을 하는지를 알리는데는 소극적이었다.

이러한 결과는 노인복지시설과 지역사회와의 거리를 더욱 멀어지게 하였으며, 신규시설이 들어설때 혐오시설로 인식되어 주민들과 갈등이 일어나는 상황이 되기도 한다.

그러나 노인복지시설이 지역사회와 단절되어 운영될 때, 시설의 운영은 물론이고 서비스의 질적 향상을 기대하기 어렵다. 지역사회 주민들에게 노인복지 서비스에 대한 올바른 인식을 심어주며, 그들을 참여시키는 것이 그들을 우리 시설의 인적 자원으로 활용할수 있는 길이며, 거주노인들을 지역사회내의 평범한 주민으로 어울릴수 있도록 하는 방법이다.

이에 시설내의 행사등에 여러 가지 방법으로 기관, 단체, 이웃의 참여를 유도하고 있다.

- 봄·가을 전체 나들이, 실버가요제, 칠·팔순잔치, 한여름밤 축제(삼겹살 파티) 등의 행사를 통하여 가족, 지역주민들과 관계를 형성하고 있다.

##### ② 사회복지사의 역할

- 행사계획

- 홍보처 발굴 및 홍보 : 공공기관, 관계기관, 관심있는 지역주민 목록 작성 및 관리

- 월 1회 소식지 발송 : 사업내용 안내, 참여꺼리 제공.

#### 2) 명절 귀가지원, 생신잔치 참여

##### ① 실시배경

설, 추석은 한국의 고유 명절로 가족들이 모여 조상에 차례를 지내며, 가까운 일가친지를 방문하여 안부를 묻는 날이다. 시설노인들중 여건이 허락하는 가정에 한해 일시적으로 귀가하게 하도록 하여 가족들과 명절을 보낸후 시설로 돌아오게 한다.

거주노인의 생신날 가족이 시설을 방문하여 직원, 노인, 가족이 함께 생신축하파티를 하며, 맛있는 음식을 나누어 먹거나, 서로간의 정을 나눌 수 있도록 유도한다.

② 사회복지사의 역할

- 가족의 참여 동기 부여를 위한 전화·내방가족 상담, 서신 발송
- 노인의 의견 수렴(본인이 원할시 귀가 유도)
- 귀가 지원(차량제공, 가족 동행 유도)

3) 인근 학교 및 기업과의 자매결연 활동

① 실시배경

1988년 서울올림픽을 계기로 자원봉사활동의 사회적 필요성이 제기된 이래 한국의 각 학교에서는 정규교육과정의 하나로 자원봉사활동을 적극 장려하고 있다. 아울러 우리시설도 지역사회주민의 복지교육의 장으로서의 역할수행을 위해 각 학교 및 기업과의 자매결연을 적극적으로 실시해 오고 있다. 현재 초등학교 5개교, 중·고등학교 4개교, 대학교 4개교, 다수의 기업체 및 기업내 동호회와 정기적인 교류(자원봉사활동, 복지교육 실시, 공동행사 주최, 경제적 후원)를 하고 있다.

② 사회복지사의 역할

- 학교, 기업의 참여 동기 부여를 위한 홍보 및 내방, 서신 발송
- 사회복지 및 자원봉사에 관한 기본 교육, 평가
- 활동에 대한 보상차원의 표창장 수여 및 언론 홍보

정기적으로 오는 자원봉사자의 경우 노인들과 개인적인 친분이 돈독해져 개별적인 편지교환, 외출, 선물 주고받기등이 행해지기도 한다. 특히 핵가족이 대부분인 청소년과 젊은 직장인들에게 노인에 대한 공경과 경로효친의 전통적 가치를 경험하게 하고, 가족이 그리운 노인들은 이들을 통해 친손자녀를 보는 기쁨을 느끼고 있다.

4. 지역사회 인식개선 및 인적, 물적 자원 동원을 위한 개입 활동

- 자선콘서트 -

노인복지시설이 지역사회에서 함께 하는 지역의 복지시설이 되기 위해서는 과거 시설에 대한 부정적 인식과 편견을 없애는 것이 중요하다. 모든 지역사회



회가 시설의 올바른 역할과 중요성을 함께 공유하고 참여할 때 시설에서 생활하는 노인들 역시 당연한 지역사회주민으로 생활할수 있는 것이다.

시설의 인식전환은 많은 방법이 있을 수 있으며, 우리원에서는 지역주민에게 문화적인 체험을 제공하고 시설의 긍정적 인식제고를 위한 방법으로 자선콘서트를 기획하였다.

① 목적

- 지역사회주민들에게 노인복지시설의 현황을 소개하여 긍정적인 인식을 심어준다
- 지역 기업의 협찬을 유도함으로써 기업의 사회공헌의 기회를 제공
- 문화공연 관람으로 새로운 기부문화의 형식을 제시한다.

② 대상-지역사회주민

③ 재원-스폰서 및 후원, 공연수익(티켓판매금액)

④ 사회복지사의 역할

콘서트 기획 및 전체적인 진행과 관련한 모든 활동을 수행한다.

행사후 많은 곳에서 시설에 대한 새로운 긍정적인 반응을 확인할 수 있었으며, 특히 시설을 연말특집방송용으로 대하던 대중매체에서 새로운 시설의 모습을 방영하겠다는 요청이 많았다.

지역내 기업뿐 아니라 전국차원의 금융권에서도 차후 우리원을 위한 사회복지기금 예산을 별도 책정하겠다는 의사를 전달해 왔으며, 현재에도 각종 행사시 적극적으로 자원봉사에 참여하고 있다.

### Ⅲ. 맺음말

지금까지 우리 애광요양원의 여러 프로그램들을 통해 간략하나마 지역사회와 관련한 사회복지사의 활동에 관해 소개하였다. 발표자의 능력부족으로 정확한 전달이 안된 부분이 있으리라 짐작하나 너그러운 이해를 바란다.

발표자의 주관적인 견해임을 전제로 우리원은 프로그램의 개발이나 자원 확보 등에 있어 한국의 타시설에 비해 사회복지사의 역할이 매우 활발하다고 자부하고 있다. 그러나 전체적인 서비스의 전문성과 효과성, 효율성을 확보하고 있느냐는 물음에는 매우 미흡한 수준이라고 솔직히 인정하지 않을 수 없다.

특히 중증노인에 대해서는 일상생활지원이나 일부 의료서비스 또는 치료프로그램에만 치중하고 있으며, 자원봉사자의 대부분이 단순일상생활지원에 투입되어 있다. 반면 지역사회와 관련한 비교적 활동적인 프로그램의 경우는 참여노인이 소수이거나, 여러 이유로 참여가 제한되거나, 몇 개의 프로그램에 중복적으로 참여하는 노인도 있다.

또 소개된 사례에서도 알수 있듯이 대상노인들이 프로그램 참여로 인해 어떤 변화나 삶의 질에 향상을 보였는지 그 효과성에 대한 근거를 제시하는 것도 부족했다. 여러 원인이 있을 수 있겠으나 본인이 생각하는 몇 가지 중요한 한계점을 제시함으로써 발표를 마치고자 한다.

첫째, 프로그램의 평가에 관한 전문성의 부족이다.

서비스 계획의 필수요건인 사정척도의 개발 및 활용이 미비한 관계로 평가의 객관성이 확보되기가 어렵다. 물론 개별 시설마다 기존의 평가도구나 시설자체의 척도로 노인의 기능상태에 대한 사정을 하고 프로그램의 목표 및 효과성에 대한 평가들을 실시하고는 있다. 그러나 모든 한국의 노인시설에서 사용할 수 있는 공식적이고 객관적인 평가척도에 대한 정리가 미비하여 노인의 기능상태에 대한 정의나 서비스 지원도 거의 동일하거나 또는 전혀 다른 해석을 하기도 한다. 이러한 한계점은 사회복지사의 개인적인 도구활용능력이나 판단력에 의존하게 함으로써 결과적으로 사회복지사의 전문성에 대한 도전의 이유가 되기도 한다.

그러나 현재 한국의 공신력 있는 연구기관 및 연구자들에 의해 척도개발 작업이 활발히 진행되고 있어 이러한 문제점들은 점차 해소되리라 본다.

둘째, 노인복지시설 인력의 각 부분별 전문화 및 직책에 따른 직무분석이 미비하다.

노인요양시설의 경우 직원배치에 있어 직접 Care를 담당하는 인력 외 자원봉사자관리, 자원동원, 프로그램 기획, 행정, 시설관리 등 많은 인력들이 필요하며, 각 분야마다 나름의 전문성을 요한다. 그러나 현재 한국의 노인복지시설 인력은 일상care를 담당하는 사회복지사가 대부분이며 이들이 care외 위의 모든 업무를 분담하고 있다. 이는 서비스의 질 저하와 업무의 과중, 분야별 전문성의 부족, 직책에 따른 위치와 역할의 혼란을 겪는 결과를 낳고 있다.

사회복지서비스에 있어 전문인력의 확보는 매우 중요한 요소로서 현재 대

폭적인 인력충원과 직무분석에 대한 활발한 논의가 이루어지고 있다.

셋째, 시설직원의 복리후생제도가 부족하다.

한국의 경우 사회복지시설 직원의 보수수준은 일반기업의 약 75%수준이다. 또한 각종 복리후생제도(휴가, 출산, 육아, 각종수당 등)역시 일반적인 사회 기대치에 미치지 못하고 있다. 사회복지사의 처우개선을 위한 요구는 사회복지사협회를 중심으로 계속되어져 왔으며 최근에는 매우 적극적인 문제제기가 있기도 한다.

우리 애광노인요양원은 많은 부분 부족하지만, 부족하다는 것은 채워야 할 목표가 있는 것이므로 우리에게는 노인을 위한 최선의 노인복지시설로 거듭나기 위한 희망이 있다.

또 한국의 사회복지시설 50년을 지켜온 우리의 선배들은 ‘봉사와 희생’의 사명감으로 지금의 한국 사회복지의 토대를 만들었고, 최근 사회복지전문가로서의 각각의 현장에서 의욕적인 활동을 보이고 있는 젊은 사회복지사들은 선진 복지국가의 토대를 만들기 위한 노력을 경주하고 있다.

## 프로필

노 갑연 (盧 甲連)

한국 애광노인요양원 원장

한국 부산대학교 행정대학원 사회복지 전공

현 한국 애광노인요양원 원장

한국 애광재가노인복지기관 관장

참고로 애광재가노인복지기관은 가정봉사원파견센터, 주간보호센터, 단기보호센터가 있습니다.